

音 合 の 町 崎 黒

新聞からたどる黒崎の歴史 (五十八)

双葉山、羽黒山から大相撲大野巡業まで

第一回大相撲大野興業の坪席の入場料は二百五十円だった。

(先月号からの続き)

横綱双葉山は、昭和二十一年に引退して、時津風部屋を起したと聞いているので、これはあの偉大な双葉山の名の宣伝効果をねらって書かれたものだろうか。また、この時大野へ来た力士の名が一人も書いてないのもおかしいが、箱四さんの亡い今、それは分からない。ただ、この昭和二十二年の大野巡業は、力士、行司に呼び出し床山と総勢で八十人というから、巡業としては小規模なもので、三役級の力士は何人も来なかったようである。

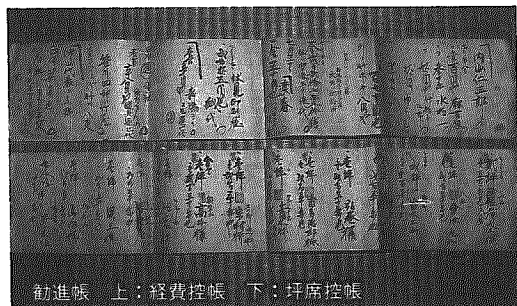
※注 郷土西蒲出身の力士で大横綱羽黒山の巡業例を見ると、昭和十六年六月、羽黒山の横綱昇進を記念し、羽黒山が兄弟子双葉山と共に郷里旧西蒲原郡松長村字羽黒部落(現中之口村)に巡業した時は、立行司木村庄之助はじめ力士、相撲世話方年寄総勢二百五十人以上だった。

昭和二十二年八月に行われ

た、第一回の大相撲大野興業を、建元浅妻長市さんの勧進帳によってまとめてみる。

まず、勧進帳の一冊経費控帳(支出の部)には、興業契約に乗り込んできた高田川(巡業部長か)と、建元浅妻長市さん、世話方の姥ヶ山主人白井さん、同じく箱四さんが興業について協議したのだろう、その接待費(酒肴料)金四百五十円也に、高田川の宿泊料金が五十円也と記されている。続いて、お相撲さんの道具の運び代として、金三百八十円也が、当時全国的な輸送機関「日本通運」に支払われている。そして、土俵づくりに使ったのだろう、米俵の空き俵五十俵を新田町にあった新潟県食糧営団大野配給所から金二百二十七円五十銭で買い、同じく土俵に入れる土を鳥原の笹川馬車屋から運んでもらって代金二百円が支払われている。会場観客席作りの人夫三十五人分の手間代が金二千四百五十円也。観客席の棧敷作りの舟板の借用代金

三百円也が七区にあった八木造船所へ。同じく棧敷席に敷くムシロ三百枚の代金千八百円也が新潟市の結城組に支払われている。雨天の場合を考へてのことだろう、大野の船頭さんから船荷用のテント二十七枚を借り、その借賃(謝礼)が金五百四十円也。小屋掛けの材料(木工場から木材の借賃)の損料が金三百円也。大相撲の宣伝の印刷代金七百七十円が若木印刷屋へ、同じく金四百五十円が大野の伏見印刷屋に支払われている。二之町の伊助(現セボン三本、三本健一さん)から、幾品か品名解読不詳の金千四百五十円也。新田町の内山仁三郎商店から、相撲場で使う小柄杓や塩を入れるザル、ホーキな



勧進帳 上：経費控帳 下：坪席控帳

ど金百七十八円也。渡春からハツマンベ(ハチマンベ、大関に与えられる相撲の水引のようなもの)金五十円也。番付、ビラ書き札金百五十円也が、七区に昔あった料理業兼旅館箱田屋に支払われている。(箱田屋の親父さんは、当時町の名筆家として知られていた)その他細かい買い物がいくつか記されている。そして、力士七十一人分の泊まり料と外に先発員、書記共九人の泊まり料合計八十八人分が金四千五百円也。最後に相撲一行への支払金一万四千三百八十円也が支払われている。

勧進帳のいま一冊は、興業坪席控帳(収入の部)である。今日の大相撲の本場所などで、観客の棧敷席の良い所を普通ます席といっているようであるが、この大野巡業では、「坪」として売り、買った人の名が次のように載っている。一坪が二百五十円也で、新田町の巳亦さん、舞潟村の重太郎さん、諏訪町の池屋さん、新田町の田中さん、西酒屋村の野口さん、大野の戸枝さん、七区の佐藤大工さん、八区の会津屋さん、新町の山田木工所さん、鷲ノ木の内山さん、大野の弦巻さん、新町の山田多治郎さん、諏訪町の宗村魚屋さん、興野の高井さん、諏訪町の小熊タツヤさん、大野の児玉さん、長屋小路の京染屋さん、鷲ノ木の口輪田さん等、

この外にも十人程の人が坪席を買っている。自由席の入場料はいくらだったかは、不詳であるが、大野の近郷近在から珍しい相撲取りを見ようと大勢の観客が集まり、盛況だったと言われている。

しかし、残念ながらこの昭和二十二年の大相撲興業には、三役級の著名力士の名がどうしても浮かんでこないの

である。大野八区藤月堂の佐藤義郎さん(昭和十二年十月生)が子供のころに見た大相撲の力士のことを次のように話してくれた。「私が十歳か十一歳位だったころ(昭和二十二年ころ)、たしかに大相撲が大野へ来た。相撲取りの名はよく覚えていないが、不動とかいって、やせていたがとても背の高い人がいた。結びの一番で、その不動が、力士名は分からないが小さな人と取り組んで、つり出しで勝ったのを覚えている。しょつぎ、相撲には、でぶと細いのが面白い取り組みをしたことを今も覚えている。相撲が終わってからも、どうだったか忘れたが、昔八区の川端にあった料理屋新桜屋のこうろ(洗い場)のあたりが、私たち町内の子供の水泳場で、川で遊んでいたら、まだ幕下か序の口のちよんまげのお相撲さんが泳ぎに来て、新田町まで下ったり、一緒に泳いだりした」(続く)